

令和6年2月9日

各位

トモニホールディングスグループの令和6年3月期第3四半期決算概要について

トモニホールディングス（本社：香川県高松市、社長：中村 武）は、令和6年3月期第3四半期（令和5年4月1日～令和5年12月31日）連結業績等の概要と、当社グループの中核企業である徳島大正銀行（本店：徳島県徳島市、頭取：板東豊彦）及び香川銀行（本店：香川県高松市、頭取：山田径男）の単体業績等の概要について発表いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. トモニホールディングス

（1）令和6年3月期第3四半期（令和5年4月1日～令和5年12月31日）連結業績

当第3四半期における経営成績につきましては、経常収益は、貸出金利息及び有価証券利息配当金の増加により資金運用収益が増加したことに加え、役務取引等収益が増加したこと等により、前年同期比8,153百万円増加して64,195百万円となりました。経常費用は、与信関連費用が減少したものの、外貨調達に伴う外国為替売買損の増加によりその他業務費用が増加したこと等により、前年同期比7,072百万円増加して48,151百万円となりました。その結果、経常利益は、前年同期比1,082百万円増加して16,044百万円となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は、法人税等の増加により、前年同期比150百万円減少して10,453百万円となりました。

当第3四半期末における財政状態につきましては、総資産残高は、前年度末比1,749億円増加して4兆7,262億円となり、純資産残高は、利益剰余金が増加したことに加え、増資により資本金及び資本準備金が増加したこと等により、前年度末比234億円増加して2,707億円となりました。また、譲渡性預金を含む預金等残高は、前年度末比1,433億円増加して4兆2,901億円、貸出金残高は、前年度末比1,514億円増加して3兆5,467億円、有価証券残高は、前年度末比181億円減少して6,734億円となりました。

		令和6年3月期 第3四半期	
			前年同期比
損益	経常収益	64,195百万円	8,153百万円
	経常費用	48,151百万円	7,072百万円
	経常利益	16,044百万円	1,082百万円
	親会社株主に帰属する四半期純利益	10,453百万円	△150百万円
		令和6年3月期 第3四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	47,262億円	1,749億円
	純資産	2,707億円	234億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	42,901億円	1,433億円
	貸出金	35,467億円	1,514億円
	有価証券	6,734億円	△181億円
	自己資本比率（国内基準）	9.19%	0.33%

（2）令和6年3月期通期（令和5年4月1日～令和6年3月31日）連結業績予想

令和5年11月14日に公表しております令和6年3月期通期の連結業績予想につきましては、修正ございません。

2. 徳島大正銀行

(1) 令和6年3月期第3四半期（令和5年4月1日～令和5年12月31日）単体業績

当第3四半期の損益状況は、経常収益は、貸出金利息、有価証券利息配当金及び役務取引等収益が増加したこと等により、前年同期比4,508百万円増加して35,503百万円となりました。

また、コア業務粗利益は、資金利益が増加したこと等により、前年同期比682百万円増加して23,217百万円となり、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、前年同期比730百万円増加して9,943百万円となりました。

経常利益は、前年同期比982百万円増加して9,192百万円となり、四半期純利益は、前年同期比333百万円増加して6,092百万円となりました。

当第3四半期末の主要勘定残高の状況は、譲渡性預金を含む預金等残高は、個人・法人預金ともに増加し、前年度末比653億円増加して2兆3,804億円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前年度末比761億円増加して2兆5,121億円となりました。また、貸出金残高は、中小企業・個人向け貸出等に積極的に取り組みました結果、前年度末比714億円増加して1兆9,766億円となりました。なお、自己資本比率（国内基準）は8.13%となりました。

金融再生法開示債権額は、前年度末比2,864百万円増加して40,844百万円、総与信に占める割合は2.03%となりました。

		令和6年3月期 第3四半期	
			前年同期比
損益	経常収益	35,503百万円	4,508百万円
	コア業務粗利益	23,217百万円	682百万円
	コア業務純益	9,943百万円	730百万円
	経常利益	9,192百万円	982百万円
	四半期純利益	6,092百万円	333百万円
	本業利益（外貨調達コスト控除後）	6,460百万円	703百万円
	与信関連費用	715百万円	△376百万円
		令和6年3月期 第3四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	25,640億円	652億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	23,804億円	653億円
	総預り資産	25,121億円	761億円
	貸出金	19,766億円	714億円
	有価証券	3,654億円	△64億円
	自己資本比率（国内基準）	8.13%	△0.02%
	金融再生法開示債権額	40,844百万円	2,864百万円
不良債権	総与信に占める割合	2.03%	0.07%

3. 香川銀行

(1) 令和6年3月期第3四半期(令和5年4月1日～令和5年12月31日)単体業績

当第3四半期の損益状況は、経常収益は、貸出金利息、有価証券利息配当金及び役務取引等収益が増加したこと等により、前年同期比3,624百万円増加して24,727百万円となりました。

また、コア業務粗利益は、資金利益が増加したこと等により、前年同期比637百万円増加して18,048百万円となり、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、前年同期比544百万円増加して7,241百万円となりました。

経常利益は、前年同期比458百万円増加して6,955百万円となり、四半期純利益は、法人税等合計が増加したこと等により、前年同期比129百万円減少して4,538百万円となりました。

当第3四半期末の主要勘定残高の状況は、譲渡性預金を含む預金等残高は、個人・法人預金ともに増加し、前年度末比888億円増加して1兆9,250億円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前年度末比925億円増加して2兆675億円となりました。また、貸出金残高は、中小企業・個人向け貸出等に積極的に取り組みました結果、前年度末比807億円増加して1兆5,792億円となりました。なお、自己資本比率(国内基準)は9.44%となりました。

金融再生法開示債権額は、前年度末比2,604百万円増加して30,747百万円、総与信に占める割合は1.90%となりました。

		令和6年3月期 第3四半期	
			前年同期比
損益	経常収益	24,727百万円	3,624百万円
	コア業務粗利益	18,048百万円	637百万円
	コア業務純益	7,241百万円	544百万円
	経常利益	6,955百万円	458百万円
	四半期純利益	4,538百万円	△129百万円
	本業利益(外貨調達コスト控除後)	4,995百万円	751百万円
	与信関連費用	466百万円	58百万円
		令和6年3月期 第3四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	21,566億円	1,086億円
	預金等(譲渡性預金を含む)	19,250億円	888億円
	総預り資産	20,675億円	925億円
	貸出金	15,792億円	807億円
	有価証券	3,066億円	△116億円
	自己資本比率(国内基準)	9.44%	△0.02%
	金融再生法開示債権額	30,747百万円	2,604百万円
不良債権	総与信に占める割合	1.90%	0.07%

以上

【本件に関するお問い合わせ先】

トモニホールディングス株式会社 経営企画部
株式会社徳島大正銀行 企画部
株式会社香川銀行 総合企画部

TEL : 087-812-0102
TEL : 088-656-1118
TEL : 087-812-5132